

教育センターニュース

ミネルバ

105号

特集記事

- 副所長あいさつ
- 公開講座報告
- 特色ある学校の紹介
- 教育センターが進める研究



佐賀県教育センター <http://www.saga-ed.jp/>  
〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上  
TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404

## 高校生の爽やかな「風」を支える

副所長 小城 博



「この夏 佐賀に 君色の風が吹く」をスローガンに【2007 青春・佐賀総体】が開催され、私たちに多くの感動や感銘を与え、24日間の熱戦の幕を閉じました。佐賀っ子の活躍によって県勢は過去にない好成績を収めることができ、正にスタジアムを吹き抜けた「佐賀の風」を感じました。

皇太子殿下をお迎えした総合開会式は、21世紀を担う高校生のスポーツの祭典にふさわしく、熱意と創意を結集させた見事な手づくりの開会式となりました。一人一役を担った高校生たちの日焼けしたその笑顔は、他校生と協力しながら大きな仕事をやり遂げたという達成感を物語っていました。

競技では、5団体1個人の金メダルを獲得しました。新体操競技では、捲土重来、女王の威厳を魅せてくれた佐賀女子高校、亡き友に捧げる集大成の演技で2年振りの全国制覇を果たした神埼清明高校の両校が会場を魅了しました。龍谷高校男子剣道も「勝友」の絆堅く、8年振りの優勝奪回。また、佐賀東高校のなぎなたと高志館高校女子アーチェリーの初優勝も見事でした。弓道女子個人で県勢初の日本一を射止めた伊万里高校の酒谷さんの凜とした構えは名人とも思える程で、極めた道の深さを感じさせるものでした。

これらの栄光には、「地元佐賀で優勝」を合い言葉に全身全霊を懸けた選手の奮闘はもちろんのこと、選手を支える家族や地域、学校(部員・友達)、そして選手と共に「佐賀で」を背負い、どんな苦境においても支え続けた指導者の存在があることを忘れてはなりません。教育再生が叫ばれる中、佐賀には、熱心な先生方がたくさんおられることを力強く感じたところです。中でも、なぎなたの指導者は、今秋の世界選手権に出場され、見事個人・団体で優勝を飾り、世界2冠に輝かれた剣士です。正に「生きた教科書」に、毎日教える選手は幸せです。『教育力』の著者、齋藤孝さんは「教育の根底にあるのは、あこがれの伝染である」と述べていますが、子どもたちの秘めた力を引き出し、我が身を挺して範を示す教師は、未来へと続く可能性の扉を開かせるものと確信しています。

加えて、甲子園ではこの風に乗って「佐賀北旋風」を巻き起こし、奇跡の大逆転で初優勝。この栄冠の裏にも「風」を支えた偉大な指導者の存在を感じた2007年の夏でした。

# 公開講座の紹介

公開講座は研修講座の午後半日に設定されており、受講者以外の先生方も聴講できます。今年度は8本の公開講座を開設しました。来年度も魅力的な公開講座を計画しています。

## LD, ADHD理解支援講座(6/22)



愛媛大学教育学部准教授 吉松靖文先生  
ADHD児は失敗してから気付く復習型であり、高機能自閉症児は失敗が許されない予習型であるなど、子どもの特性に応じた支援の在り方の必要性についてご講義いただきました。

## 小・中総合的な学習の時間講座(8/8)



鳴門教育大学学校教育学部教授 村川雅弘先生  
総合的な学習の時間において、確かな力を身に付けさせるための留意点を先進校の実践を通してご講義いただきました。また、ワークショップ型研修で先生方が抱える課題を解決することができました。

## 小学校英語活動講座(8/10)



昭和女子大学附属昭和小学校教頭 小泉清裕先生  
小学校段階では、英語を話す前に、聞いて推測し、反応することが大切であるということを教えていただきました。また、他教科の内容を取り入れ、教材化するための多くのヒントをいただきました。

## 小・中特別活動講座(8/17)



静岡県沼津市立第四中学校校長 工藤榮一先生  
キャリア教育の理論と実践について教えていただきました。中・高の進路指導との関連を図る特別活動の在り方を考える場となりました。

## 小学校算数II講座(8/20)



筑波大学附属小学校副校長 坪田耕三先生  
考える力を培う算数科授業づくりのポイントについて、ご講義いただきました。ハンズオンマスの演習で三角錐を作りました。Q&Aでは算数科指導の悩みにも答えていただきました。

## ～ その他の公開講座 ～

### 中・高英語科講座(6/28)

中・高6年間を通したコミュニケーション能力の育成について、ご講義いただきました。また、授業目標の具体化、音読や暗唱を取り入れた活動の大切さについて、実践から教えていただきました。

### 自閉症児の理解と指導講座(8/30)

自閉症児の特性に応じたコミュニケーションの取り方などを教えていただきました。通常学級に在籍する子どもたちとの適切なかかわり方について知ることができました。

### 中学校技術・家庭科講座(9/27)

セルフ・エスティーム(自尊感情)をはぐくむ指導の展開やその評価方法など、これからの技術・家庭科の在り方について、ご講義いただきました。



# 特色ある学校の紹介



## 唐津市立湊小学校「豊かな心をはぐくみ、主体的に実践する子どもの育成」

本校は、唐津市西北端に位置する学級数7、児童数166名の小学校です。子どもたちは、豊かな海に恵まれた環境の中で、のびのびと楽しく毎日を過ごしています。

本校では、昨年度から文部科学省の委嘱を受けて「豊かな心をはぐくみ、主体的に実践する子どもの育成」をテーマに、特別活動や各教科、総合的な学習の時間との有機的な関連を図った総合単元的な道徳学習の研究を進めています。目指す児童像の実現のためには、共感する心や思いやりの心、協力する態度などを子どもたちの心にしっかりと根付かせることが必要であると考えました。そのために、総合単元的な道徳学習を年間指導計画に位置付けて、計画的な指導を行っています。指導のポイントは、道徳と教科等をどのように響き合わせていくのかを工夫することです。その結果、各教科や学校行事等の様々な場面において、道徳で学んだ価値を実践する子どもたちの姿を見ることができるようになりました。そして、日常の子どもたちの小さな変化に今まで以上に気付くことができるようになったことも、教師側の成果として挙げられます。

道徳の授業は唐津市教育の日や授業参観日、授業研究会で保護者や地域の方々にも公開しており、「子どもの考えを知ることができて参考になった」と、とても好評です。

小中連携も研究の柱の1つです。湊中学校との連携強化を進めています。小・中学校合同で実施した授業研究会では、活発な意見交換が行われました。また、児童と生徒の交流活動として、読み聞かせや交流音楽会などがありました。様々な活動を通して児童生徒間や教師間のつながりを深めることができます。

平成19年11月27日(火)には小中合同の研究発表会を開催し、全学年で授業公開を行います。



## 嬉野市立塩田中学校 「生徒とともに」

本校は、緑豊かな塩田の中心に位置する学級数14、生徒数423名の中学校です。

本校では、昨年度までの2年間、県教育委員会の「特色ある学校づくり」の指定を受けて、「気づき・考え・表現できる生徒の育成」を目指した研究に取り組みました。本校は以前から生徒指導に重点を置き、「あたりまえのことをあたりまえにする」をスローガンに、基本的生活習慣(あいさつ・掃除・安全指導)と社会的規範の定着を図ってきました。そして、更なる向上を目指すためには、「表現力」が必要であると考えました。そのために学校生活の様々な活動の中に、生徒が学習したことに自分自身の考えを付け加え、相手と目的に即して思いを伝える場面を意図的に設定しました。授業では、「気づき・考える場面」と「表現する場面」を明確にすることで、生徒の集中力が高まり、学習内容の理解も深まってきました。学校行事等では実行委員会形式を取り入れて、生徒自らが企画・運営できるように自分の考えを発言する場の設定を行うなどのサポートを行いました。さらに、本校では自分の意見を伝えることと同様に、「聞く態度や姿勢」も表現力の重要な要素であると考えました。相手の話を聞くという行為は、本校が重点を置いている基本的生活習慣の1つでもあり、表現力の育成が単なる自己主張に終始することがないように留意したことも研究の特色です。

また、清掃指導にも力を入れており、掃除の仕方や担当区域の入れ替え等に工夫をしています。掃除の様子を県内外から視察に来られることもあります。

職員は「生徒と共に」を合い言葉に、担任と級外の区別なく全員が一丸となって教育活動に取り組んでおり、そのことも成果を上げている大きな要因であると自負しています。



※ ミネルバでは、これからも特色のある学校を紹介していきます。



# 教育センターが進める研究

佐賀県教育センターでは、研究調査事業として「プロジェクト研究」と「個別実践研究」という2つの研究を進めています。今年度は以下の研究に取り組んでいます。年度末には、研究の成果を冊子等の配布やウェブページとして発信します。また、昨年度までの研究の成果はホームページ上で公開しています。授業等でご活用ください。

教育センタートップページ

**研究調査**  
教育センター所員の研究・調査を紹介

**キャリア**

- **授業に役立つ実践研究**
- 佐賀県教育センター研究紀要
- 教育関係リンク集

## プロジェクト研究

佐賀県の教育課題や学校の要請を踏まえ、県内の学校の先生方に研究委員としてご協力いただき、プロジェクトチームを組んで、指導の具体的な方策や教育実践に役立つ教材等を提案しています。

- 教師のための安全な理科実験・観察(中学校編)【昨年度より継続】
  - キャリア教育【新規】
  - 国際コミュニケーションの素地をつくる英語活動【新規】
  - 確かな学力をはぐくむ算数・数学科の授業【新規】
  - 児童生徒が安心できる人間関係づくり【新規】
- 昨年度の研究冊子の一例→



## 個別実践研究

各学校の日々の教育実践に役立つ教材や指導方法の開発、使える教育相談の手立ての提案など、教育センター所員が実践的研究に取り組んでいます。

- 確かな読みの力をはぐくむ国語科指導の在り方(中・高国語科担当)
- 思考力を育む社会科学習の在り方(小・中社会科担当)
- 一人一人に寄り添った支援の在り方(特別支援教育担当)
- 知的好奇心を喚起する教材開発(中家庭科担当・高商業科担当)



# あなたのチャレンジ 待っています!

## 教育論文・マルチメディア教材募集締め切り迫る!

今年も以下の要領で教育論文・マルチメディア教材を募集します。奮ってご応募ください。

- 募集部門
    - 「教育論文部門」
      - 校内研究の部(各学校で取り組んできた教育実践)
      - 個人研究の部(個人またはグループで取り組んできた教育実践)
    - 「マルチメディア教材部門」
      - 分かる授業を行うために工夫されたマルチメディア教材
  - 募集期間及び提出先
 

幼稚園及び小・中学校	-----	11月 5日(月)～13日(火)	当該市町教育委員会
県立学校	-----	11月19日(月)～27日(火)	教育センター

教育論文またはマルチメディア教材を応募票とともに提出してください。
- ※ 入賞論文及び教材は教育センターホームページ上で公開します。  
教育センターホームページより「募集要項・応募票」「研究計画の立て方・研究の進め方」「論文表記上の留意点」「過去の入賞作品」などがダウンロードできます。



### <編集後記>

秋も深まり、県内各地で研究発表会が開かれる時期となりました。学校や先生方の研究成果が、それぞれの学校で授業公開や研究紀要という形で紹介されます。

その一方で、研究発表会は実施されないものの、創意工夫された取り組みをされている学校や先生もいらっしゃると思います。その取り組みを教育論文にまとめて、上に紹介している「教育論文・マルチメディア教材」に応募されてはいかがでしょうか。たくさんのご応募をお待ちしております!

